

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会（第5回）

◆ 環境保全や地域の取組状況を共有し、今後の取組を議論！

- 開催日時：平成31年2月27日（水）15:00～17:00
- 実施場所：長沼町総合保健福祉センター「りふれ」研修室A・B
- 出席者：計36名（うち委員13名）



ロゴマーク



【協議会の様子】

検討内容

【タンチョウの飛来状況等】

- 平成30年度は舞鶴遊水地やその近傍で多くの飛来を確認。
- 取組開始後、長沼町で初めて冬季にタンチョウを確認。



撮影：正富委員

【舞鶴遊水地及び千歳川流域の自然環境】

- 昨年度造成した微高地にヨシの植栽を実施。
- ヨシの生育を確認するが、外来種や木本種の侵入も確認。
- タンチョウの営巣及び採食適性について流域の適性評価を実施。



ヨシ植栽（微高地）

【生息環境専門部会の取組状況】

- アライグマ対策：センサーカメラによる生息状況のモニタリング。
箱わなによるアライグマ捕獲（7頭）。
- 電線衝突対策：現地立会による優先対策箇所の確認。
- 対外情報発信：タンチョウ定着前後の情報発信ルール等の提示。



2018.07.18撮影

親
幼獣
幼獣
撮影されたアライグマ家族

【地域づくり専門部会の取組状況】

- 観察施設の利活用：「鳥の駅マオイトー」の展示物リニューアル。
- 商品開発：町内企業による商品販売（ソフトクリーム、羊羹）。
- ロゴマーク：262件の応募から子供達の投票等を経て最優秀賞を選定。
- 出前授業：長沼中央小学校、長沼高校で取組に関連した授業を実施。
- 長沼タンチョウレンジャー：バードセーバーづくり、野鳥観察等の活動を実施。
- 子ども交流ツアー：長沼町と鶴居村の子ども達が互いの町村を訪問し交流。
- スノーアート：舞鶴遊水地に80m×45mのスノーアートを制作。
- 普及啓発：パネルや広報誌など様々な媒体により取組を紹介。



鳥の駅マオイトー



出前授業



タンチョウソフト

羊羹
「双鶴と雪」



タンチョウも住める長沼町
©NOBU KOMA

スノーアート

【平成31年度以降の取組】

- 次年度のモニタリング調査、維持管理予定を提示。

【地域による取組】

■タンチョウの見守り活動

加藤委員（舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会）
タンチョウの飛来が確認された場合、見回り活動を実施。これまでの普及啓発により、極端にタンチョウを脅かす人は確認されていない。今後も継続して見回り活動を実施したい。



加藤委員

■タンチョウをモチーフとした商品

森下委員（長沼町観光協会／菓子匠 森下松風庵）
タンチョウをモチーフにした羊羹「双鶴と雪」を販売。今後、インターネットでの販売による町外へのPRや他の菓子についても検討したい。



森下委員

■タンチョウに配慮した米づくり等

成田委員（ながめま農業協同組合）
タンチョウをシンボルにした環境にやさしい米づくりや、純米酒の製造販売を検討している。



成田委員

【総括】

- 冬季にタンチョウが確認され今後の定着が期待される。
- 今年度決定したロゴマークを多方面で活用してもらいたい。
- 本取組は、流域全体を視野に取り組む必要がある。
- 来年度も協議会で議論した取組について、工夫しながら前に進めてほしい。

第5回 タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 議事概要

〔日 時〕：平成31年2月27日（水）15：00～17：00

〔会 場〕：長沼町総合保健福祉センター「リふれ」研修室A・B

〔出席者〕：計36名（うち委員13名）

（1）タンチョウの飛来状況等について

○長沼町内で冬季の飛来が確認され、長沼町のタンチョウ定着の可能性は高まっている。

（2）舞鶴遊水地及び千歳川流域の自然環境について

○越冬環境と繁殖環境の両方が整えばタンチョウの定着可能性は高くなる。タンチョウが越冬するためには「採食資源量の確保」が重要である。冬期の開放水面の拡大や周辺農地の作物を刈り残すなども検討に値する。

（3）生息環境専門部会の取組状況について

- アライグマは周辺の空き家や納屋にも棲みついている可能性もあるため、空き家や納屋での捕獲対策も有効ではないか。
- 空知管内は道内でも特にアライグマが多い。効果的に駆除を行うためには、周辺市町村や道との連携が重要である。
- 釧路では電線衝突での死亡によりタンチョウの個体数が増えない時期があった。同様の事故の発生が懸念されるため、電力事業者と協力し、対策を進めてほしい。

（4）地域づくり専門部会の取組状況について

○9月30日にソラシル未来授業 in 長沼町では、長沼高校の生徒がタンチョウの取組を紹介するなど、地域の取組が有機的に結びついていると感じられた。

（5）地域による取組について

- タンチョウをモチーフにした商品について、今後は包装紙等にもロゴマークを使用してほしい。
- 観察マナーの普及啓発により、マナーが一般の人にも浸透することで、観察者が相互にマナーを啓発しあうことを期待したい。

（6）平成31年度以降の取組について

- 例えば、廃棄する作物を一部刈り残すなどもタンチョウの採食資源量確保になる。まずは、現状での冬季の餌資源量について把握できないか。
- 試験的に設置された観察小屋は活動の拠点となっているので、設置を継続してほしい。

【総 括】

- 取組開始後、長沼町で初めて冬季にタンチョウが確認され、今後の定着が期待される。
- 本取組は、流域全体を視野に取り組む必要がある。
- 今回の協議会で議論した取組について、来年度も工夫しながら前に進めてほしい。